

## [管内経済情勢報告]

令和5年10月25日

## 1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

(注) 5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、人流の回復やインバウンドの増加により、緩やかに回復しつつある。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	5年度は減益見込みとなっている	5年度は減益見込みとなっている	→
住宅建設	前年並みとなっている	前年を下回っている	↘
輸出	前年を下回っている	前年を下回っている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店販売は、国内客の回復に加え、インバウンドの増加により免税売上が増加するなど、回復している。

スーパー販売は、一部に節約志向がみられるものの、客単価上昇の影響もあり、持ち直している。

コンビニエンスストア販売及びドラッグストア販売は、都市部や観光地の店舗を中心に、国内観光客やビジネス客のほか、インバウンドの増加もあり、回復しつつある。

ホームセンター販売は、一部では夏物商品が好調ではあるものの、物価高等による客足の減少がみられ、横ばいの状況にある。

家電販売は、エアコンなどが好調であり、緩やかに持ち直しつつある。

乗用車の新車登録届出台数は、供給面での制約の影響が和らぎ、回復しつつある。

旅行取扱の状況は、海外旅行は引き続き厳しい状況にあるものの、国内旅行は回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 円安などを背景にインバウンド売上が好調であるほか、国内顧客でも、婦人服などの衣料品、ラグジュアリーブランドなどの高額商品や、外商売上も好調。(百貨店)
- 猛暑が9月まで続いたことで、飲料など盛夏商材が例年より長く売れている。物価高に伴う節約志向により、値ごろ感のあるプライベートブランド商品が人気となっている。(スーパー)
- 5類移行によるマインドの変化が大きいほか、夏のイベントも再開されたものが多く、人出もかなり増えている。地域別では観光地が好調でインバウンドも増加している。(コンビニエンスストア)
- 猛暑日が続いたことで夏物商品が好調なほか、インバウンド客が順調に増加し免税売上はコロナ前の状況まで回復しつつある。(ドラッグストア)
- パソコンやテレビは引き続き前年割れの状況が続いているが、7月以降は記録的な暑さでエアコンが好調に推移。外出機会の増加に伴い、コロナ禍で動かなかったドライヤーやシェーバーなどの理美容関係商品が動いているほか、旅行需要などの増加により、ミラーレスカメラも好調に推移している。(家電量販店)
- もともと需要は堅調であったところ、半導体不足の解消により生産が順調に回復していることから、売上が大きく伸びている。(自動車販売店)
- コロナが5類に移行して初めての夏休みで、旅行意欲は大変高く国内での長距離旅行が増えた。物価高ではあるが、旅行に関しては別予算という感じで受け止められている。一方、海外旅行はまだ慎重な姿勢。(旅行代理店)
- 夏休みの同窓会など団体客の利用や、二次会など遅い時間帯の利用も戻ってきているほか、値上げ効果により売上はほとんどコロナ前と同水準まで回復してきている。(飲食サービス)

#### ■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

鉱工業指数(生産)で見ると、生産用機械などが上昇しているものの、電気・情報通信機械などが低下しており、生産活動は一進一退の状況にある。

- 海外向けの建設機械、農業機械の需要が底堅く、引き続き堅調に推移する見通し。(生産用機械)
- 昨年は中国のロックダウンの影響で昇降機の需要が低下し業績が悪化したが、今年は受注が上向き見込み。(汎用機械)
- 車載向けリチウムイオン電池は堅調に推移しているが、自転車などの民生向けのリチウムイオン電池や、データセンターなど産業向けの蓄電システムなどが下振れしており低調。(電気機械)
- スマホやPC等の市況悪化により、半導体関連製品向けの化学薬品の製造が減少。(化学)

#### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

完全失業率は上昇したものの、有効求人倍率は足下で上昇し、新規求人数が増加傾向にあることから、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 人流の回復に伴い、国内客・インバウンド客共に増加傾向にあることから、販売部門を中心に人手不足感が加速している。特に、インバウンド客対応のための語学が堪能な人材が不足している。(百貨店)
- コロナ禍で離れた正社員の補充をしたいが、なかなか集まらずアルバイトで補っているものの、年収の壁を意識して短時間勤務を希望するスタッフが増加しており、人手が足りないことから休館日を設けて対応している。(宿泊)
- ドライバー不足が続いている。今年は新卒採用が定員に満たなかったことから、中途採用に力を入れており、常に募集をかけているが応募が少ない状況。(運輸)
- 現業職や設計担当を中心に不足感が強く、募集をかけても応募が少ない。新たな人材を確保できないなか、従業員の高齢化が進んでいることから、定年年齢の引き上げを行った。(情報通信機械)

- **設備投資**「5年度は前年度を上回る見込みとなっている」（全産業）「法人企業景気予測調査」令和5年7-9月期
  - 製造業では、生産用機械、輸送用機械など、ほとんどの業種で前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
  - 非製造業では、建設などが前年度を下回っているものの、運輸・郵便、金融・保険などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

➢ BCP対策を含めた生産拠点の強化を実施。（生産用機械）  
 ➢ 駅周辺の開発事業を予定。また、昨年控えていた設備投資を実施見込み。（運輸・郵便）

- **企業収益**「5年度は減益見込みとなっている」（全産業）「法人企業景気予測調査」令和5年7-9月期
  - 製造業では、パルプ・紙などが増益となるものの、化学、繊維などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
  - 非製造業では、情報通信などが増益となるものの、卸売、運輸・郵便などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- **住宅建設**「前年を下回っている」
  - 新設住宅着工戸数でみると、分譲マンションなどが減少していることから、前年を下回っている。
- **輸出**「前年を下回っている」
  - 管内通関実績（円ベース）でみると、輸出は、アジア向けの半導体等電子部品やコンデンサーなどが減少していることから、前年を下回っている。なお、輸入も、前年を下回っている。

【その他の項目】

- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和5年7～9月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業では「下降」超となっている。先行きについて、5年10～12月期は、全産業では「上昇」超の見通しとなっている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等や市町村などで増加していることから、前年を上回っている。
- **金融** 貸出金残高は、前年を上回っている。
- **消費者物価** 大阪市の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）でみると、食料などが上昇していることから、前年を上回っている。
- **企業倒産** 倒産件数は、前年を上回っている。

### 3. 各府県の総括判断

	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較	総括判断の要点
大阪府	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
滋賀県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
京都府	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
兵庫県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢はテンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。
奈良県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は持ち直しつつある。
和歌山県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は持ち直している。生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。

## 【総括判断】「大阪経済は、緩やかに回復しつつある」

前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較	判断の要点
緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## 【各項目の判断】

項目	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	➡
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡
設備投資	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	➡
企業収益	5年度は減益見込みとなっている	5年度は減益見込みとなっている	➡
住宅建設	前年並みとなっている	前年を下回っている	⬇

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。